



マイタイムズ

No. 178

笑みと余裕の生き方

院長 中山 茂樹

あけましておめでとうございます。

雪に包まれた正月は、とくに新しい雰囲気を迎えることができました。また、元日生まれの赤ちゃんに出会え、なお、嬉しい年の始まりでありました。

昨年、1年間の出会いと関わった人々に感謝をし、今年を充実した一年にするために、一瞬、一言を大事にして、笑みをもって働いていこうと思います。

なかなか、せちがらく余裕がないままに、来る日来る日をあわてて暮らしていると楽しみ、笑み、を忘れてしまいます。あまり構えることをしないで、一時一時をのんびり、なるがままに（あるがままに）暮らす年にしていこうと思います。

例えば、電車に乗り遅れそうな時でも走らないで、次の電車でもいいや、という気持で行きたいものです。

（と言っても、どうしても走らないといけないような時もあるでしょうが、どうかそんな事に出くわさないようにと願っているのです）。いままでなら必ず走って（そら間に合ったと）飛び乗って、とたんに滑ってころぶようなことがありましたから…。（もともと、現実の私の場合、毎日、当院に縛られておりますので滅多に電車に乗ることはないのですが…）。

一方、雪に囲まれたこのところ、私は都会育ちのためか、いつまで経っても雪道の車の運転はなんだか怖くてしかたありません。だから、スピードが出せません。下手くそなのかも知れませんが、あくまでノロノロとマイペースで走っています。万一、私の後ろに付かれた方はすみませんがゆっくり運転におつきあい下さい。（スノータイヤ四輪駆動でも怖いのです）。これ

平成23(2011)年1月25日(火)発行

発行者 小浜市多田2-2 中山クリニック 院長 中山茂樹

<http://www.nakayama-clinic.jp>

も、あえて、私のスローライフの一面と言っておきましょう。

さて、誰もがやがて必ず高齢者になっていくことは当たり前のことですが、今や少子化の時代になって、若者が多くの高齢者を養わなければならないことが目に見えてくると、何か、明るい将来と夢みる希望が与えられないような気になってくるかも知れないので、我々大人が若者に夢と希望が持てるような社会を作り出して行きたいものだ、新年を迎えて思ったものです。

それはどういうことかと考えてみると、今までは、大人が子ども（若者）のために、ひたすら自分を捨てて、苦勞して働いていくのが当たり前のような世間の価値観でしたが、本当は大人自身も夢と希望を持って自分の人生を生き生きと生きていくさまを子ども（若者）達に見せていく（語りかける）のが大変大事なのではないかと思うようになったのです。

よく、子どもは親の背中を見て育つとか言いますが、その背中が侘びしいものか、生き生きとしているか、そこら当たりを考えな、いかんな、と言うことです。

片や、政治や行政といわれるものについては、当然、市民（国民）に選ばれた人達がなさることでですから、責任を持って任に当たって頂けることを望みますが、やはり為政者は常に市民（国民）に夢や希望を与えて（語りかけて）欲しいのです。

子ども（若者）と大人（私を含め）、そして国（行政や政治）が夢と希望をもって（語りかけて）己れの人生や国の歴史を作っていくのを、急がないで（あわてないで）、ゆっくり、ゆっくり（スロースロー）で進んでいくことを願うことが私の初夢であることを語り、それをもって年頭の所感といたします。

… … … … … … … … …

《あ と が き》

1、院長の文にもありますように、今冬は暮れの大晦日、午後2時くらいから雪が霏々（ひひ）として降り始め、夕刻には除雪がしてない道路は車は走れなくなりました。JR小浜線はズタズタ、敦賀発小浜行きは3～4時間遅れ、最終は敦賀発午前0時過ぎになったようでした。それに1月は16日（日）にも小浜で4.0cm降ったと報道されました。あの、暑い暑いと何回言ったか分からない去夏、地球の温暖化温暖化のおどしも本当かなと思ってしまいます。

今年から本紙のタイトルを変えました。バックの写真は当院駐車場の除雪で積み上げられた雪です。

2、宮崎県では去年夏には牛の口蹄疫で何十万頭の牛を殺処分し、今は鹿児島も加わり鶏のインフルエンザで何百万羽を殺処分だと報じられています。自然の脅威に対し人間の及ばなさを感じます。